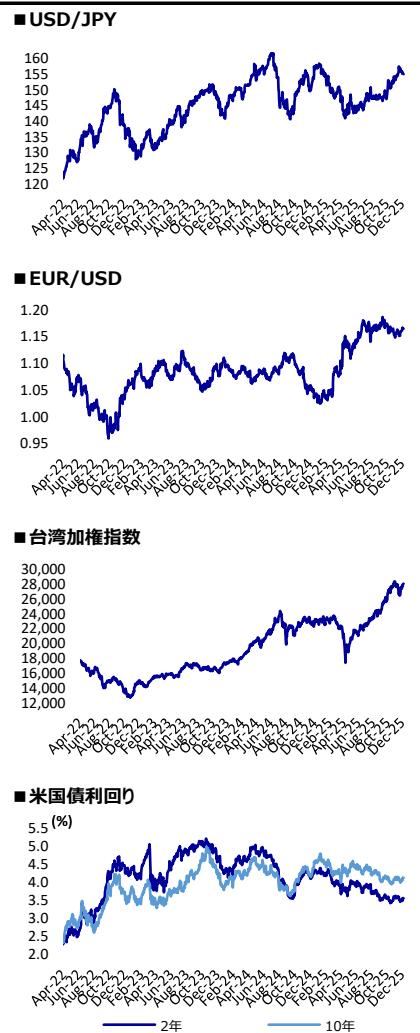
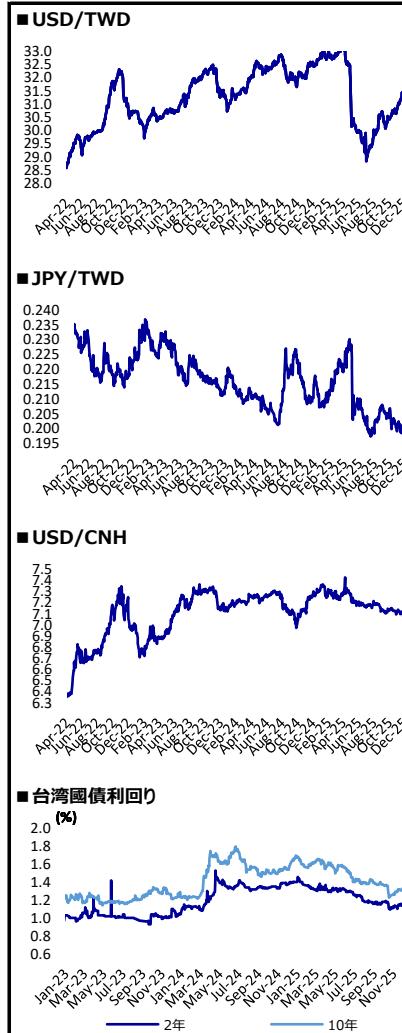


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD

先週のUSD/TWDは下落。週初12/1、USD/TWDは31.400で始値。台湾株下落やアジア通貨安、外国人投資家の売り越しで一時31.460まで上昇したが、中央銀行の調整や輸出企業のドル売りで下落幅が縮小し、31.408でクローズ。12/2は31.440で始まり、外国人投資家が買越しに転じて株価も上昇したが、輸出入企業の売買が交錯し、31.435でクローズ。12/3は31.420で始まり、トランプ氏が来年初めにFRB議長人事を発表すると述べたことで市場が樂観的になり、台湾株上昇し、USD/TWDは一時31.313まで下落した。その後、中央銀行の調整で31.344でクローズ、12/4は31.320で始まり、株式市場のリスク回復やFOMCでの利下げ期待で一時31.283まで下落しましたが、31.30を下回る水準では輸入企業のドル買いがあり、31.338でクローズ。12/5は31.370で始まり、来週のFRB利下げを強く期待したこと、米国のハイテク株物が上昇し、台湾株も上昇したこと等により、USD/TWDは一時週間安値の31.224まで下落、週末は31.258で終了。週間を通じて、外国人投資家の株式買い越し額は合計526.6億台湾ドルとなった。

■ USD/JPY

先週のUSD/JPYは下落。156.12でオープンしたドル/円は植田日銀総裁の発言を受けて、利上げ期待の高まりから円買い優勢となり、155円台半ばへ下落した。海外時間は、円買いの流れが続く中で一時154.67まで下落したが、その後は米金利上昇が支えとなり155円台半ばに値を戻した。2日、ドル/円は円買いが一服し、155円台後半に続伸。海外時間は、本邦金利上昇一服を受けて円売りが続いて156円台に乗せるも、米金利低下が重となり再び156円を割り込んで引けた。3日、ドル/円は円金利上昇を受け155円台半ばへ下押し。海外時間は、米11月ADP雇用統計の弱めの結果や米金利低下が嫌気され、一時155円ちょうど付近まで続落した。4日、ドル/円は日本株高などが支えとなり155円台半ばまで上昇。海外時間は、観測報道を受けた日銀による利上げ期待の高まりから円買いが加速し、一時週間安値となる154.51円まで下落した。その後は、米新規失業保険申請件数の良好な結果などが支援材料となって、155円台を回復して引けた。5日のドル/円は日銀が12月利上げ後も利上げ姿勢を継続との報道から一時週間安値の154.34円をつけたが、米12月ミシガン大学消費者信頼感指数が予想値を上振れ、ドル/円は155円台半ばまで上昇。最終前週比で0.55%下落の155.33でクローズ。

■ USD/TWD 予想レンジ：31,000-31,400

今週のUSD/TWDは上値の重い推移を予想。世界的な株式市場の安定と台湾株の回復、海外投資家の買越しで台湾ドル安は一服。今週の米金融政策の動向及び米金利動向に注視したい。USD/TWDは上値の重い推移を予想。

■ USD/JPY 予想レンジ：154,00-157,00

今週のUSD/JPYは上値の重い推移を予想。今週にFOMCと日銀金融政策決定会合を控える中、方向感を探る展開となることも想定されるが、米利下げ、日銀利上げ期待が高まる中、どちらかというと円買い圧力が高まる可能性がある。

今週の予想

12/8 (MON)	日Q3 GDP
12/9 (TUE)	台湾11月貿易収支、米10月JOLTS求人件数
12/10 (WED)	米10月CPI・コアCPI、米FOMC(12/9-12/10)
12/11 (THU)	米FOMC結果
12/12 (FRI)	日10月鉱工業生産

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank